

令和元年度「ごみ減量大作戦」実施内容

施策	事業	概要	実施内容	
1 水切りの徹底と食品ロスの削減	(1) 家庭系ごみの減量	① 地区座談会	職員が地域に向向き、市民との対話によりごみの減量を図る。 答申内容やごみの現状を説明するほか、「水切り」の実演を行い、「水切り」による生ごみの減量を図る。 出席者には「水切り器」の配付と、アンケートを実施。結果をさらなる減量化に活かす。 市政だより7月号に説明資料を折り込むほか、町内会回覧やSNS、ごみ分別アプリインフォメーション機能を活用し広報を行う。	期 間 令和元年7月16日(火) ～8月9日(金) (17日間) 会場・回数 各支所・学習センター、 地区集会所等66カ所で118回開催 参加者数 1,426名 (男性988名、女性438名) 説明内容 (第1部)市からの説明 (第2部)「座談会」 「ごみ減量のために」をテーマに、 意見交換 出された主な質問・意見 計1,557件
		② イベントを活用した「水切り」の普及啓発	環境フェスタや市民のくらし展などのイベントで、「水切り器」を用いた「水切り」を実演し、水切りの方法や、生ごみの減量の意義を説明。「水切り」による生ごみの減量を図る。	くらし展 8月31日(土)水切り器250個配布 環境フェスタ 10月6日(日)水切り器200個配布 アンケート 258件配布42件回収 (市民のくらし展、環境フェスタ、出前講座)
		③ 生ごみ処理容器の普及拡大	「生ごみ処理容器購入費助成制度」について、市政だよりやチラシ、SNSなどを活用し、コンポスト等の利用拡大による生ごみの減量を図る。	市政だより広報(4月、12月) チラシ広報(通年) 生ごみ処理容器購入費助成 令和元年度実績 91件 645,900円 (前年度比 件数 8件増 金額 27,600円減)
2 分別の徹底	(1) 家庭系ごみの減量	① 「おいしい食べきり2020運動」の普及	「おいしい食べきり2020運動」のポスター及びコースターを作成。企業・飲食店に対し、「2020運動」への協力を依頼する。	ポスター 823枚配布(H30年度作成) 配布先 飲食店 500枚 ホテル・旅館 100枚 コンビニ・スーパー、郵便局 126枚 その他企業 40枚 公共施設(支所) 17枚 その他(イベント利用等) 40枚 コースター 20,000枚作成・19,959枚配布 配布先 飲食店等 10,900枚 支所(町内会利用等) 8,400枚 その他(イベント利用等) 659枚
		② 地区座談会【再掲】	職員が地域に向向き、市民との対話によりごみの減量を図る。 答申内容やごみの現状を説明するほか、「水切り」の実演を行い、「水切り」による生ごみの減量を図る。 出席者には「水切り器」の配付と、アンケートを実施。結果をさらなる減量化に活かす。 市政だより7月号に説明資料を折り込むほか、町内会回覧やSNS、ごみ分別アプリインフォメーション機能を活用し広報を行う。	期 間 令和元年7月16日(火) ～8月9日(金) (17日間) 会場・回数 各支所・学習センター、 地区集会所等66カ所で118回開催 参加者数 1,426名 (男性988名、女性438名) 説明内容 (第1部)市からの説明 (第2部)「座談会」 「ごみ減量のために」をテーマに、 意見交換 出された主な質問・意見 計1,557件
		③ ごみ減量出前講座(町内会・小学校)	町内会や学習センターの教室、小・中学校において、ごみ減量と分別に関する出前講座を実施。 小学生には、バクカー車を使用した分別体験教室も実施。 環境課のクールチョイスともタイアップし、環境問題への意識啓発を図る。	令和元年度 町内会等21回 小中学校13校 (小学校12校、中学校1校)
(2) 家庭系、事業系共通	④ 分別指導の徹底	不適切なごみ出し情報に基づき清掃指導員が早朝と夜間にパトロールを行い分別の指導にあたる。	令和元年度 2班体制28回実施(早朝19回 夜間9回)	
	⑤ 集団資源回収の奨励	集団資源回収報奨金及び助成金について、市政だより及びクリーンガイドブックを用いて広報し、資源の再利用を図る。	市政だより及びクリーンガイドブックを用いて広報した。 市政出前講座でも、集団資源回収活動の参加を呼びかけた。 令和元年度登録団体数 276団体 回収量 2,081t	
	⑥ 資源物回収店舗への持ち込みの奨励	家庭から出る資源物(古紙類やペットボトルなど)について、資源物回収を行っている店舗への持ち込みを奨励することにより、総排出量の削減とリサイクル意識の啓発を図る。	地区座談会・出前講座等で資源物回収店舗への持ち込みを奨励した。また、資源物回収を実施している店舗を市ホームページに掲載し広報した。 掲載店舗数 31店舗	
(2) 家庭系、事業系共通	① ごみ分別アプリ「さんあーる」の利用促進PR	若い世代にごみ問題をへの意識付けを図るため、アプリを導入。 大学生などの若い世代に加え、小学校における出前講座でも広報し、児童から親への周知も行う。	1、市政出前講座、2、小・中学校での分別出前講座、 3、福島大学、4、宅建協会等で利用推進のPRを行った。 令和元年度新規登録数4,443件 令和元年度未登録総数6,222件	
	② 雑がみ、古布収集など、新たな収集品目の検討	3Rの徹底によりごみの減量を図る。 可燃ごみに含まれる資源物の新たな収集品目を検討する。	環境フェスタで、古着・絵本の回収を実施。 古着：220kg 絵本：281冊	

施 策	事 業	概 要	実施内容	
3 たい肥化の徹底	(1) 家庭系ごみの減量	① 生ごみ処理容器の普及【再掲】	「生ごみ処理容器購入費助成制度」について、市政だよりやチラシ、SNSなどを活用し、コンポスト等の利用拡大による生ごみの減量を図る。	市政だより広報（4月、12月） チラシ広報（通年） 生ごみ処理容器購入費助成 令和元年度実績 91件 645,900円 （前年度比 件数 8件増 金額 27,600円減）
	(2) 家庭系、事業系共通	① 草類の減量の呼びかけ	可燃ごみの約2割を占める草類の減量について、市政だよりなどの広報媒体を用いて草類の水分を除く方法を呼びかける。	市政だよりに折り込んだ小冊子に記載。 地区座談会、出前講座、テレビ市政だより（10月5日、6日）による広報を実施。
4 その他のごみの減量化施策	(1) 家庭系ごみの減量	① 市政だより折り込みによる広報	ごみ処理有料化に係る答申の内容、ごみの現状、ごみ減量の具体的な取り組みを広報するため、市政だよりに折り込む小冊子を作成する。併せて、「地区座談会」の資料としても使用する。	小冊子作成 117,200部（6月） 市政だより7月号折り込み、地区座談会、出前講座の説明資料として使用市政だより7月号に折り込み全戸配布を行った。
		② 高校、大学の学園祭での啓発	高校、大学の学園祭に出向き、不特定多数の方が集まる場所で、ごみの減量を訴える。	市内の大学の学園祭において、「ごみ減量大作戦・ごみ分別アプリ」の広報チラシを各500部配布 福島県立医科大学（10月19日、20日）、 福島学院大学（10月20日）、 桜の聖母短期大学（11月3日）
	(2) 事業系ごみの減量	① 福島市役所の取り組み	事業所としての福島市役所が、ごみ減量に向けた推進役を担うため、市エコ実践計画として「ごみ減量マイナス10%」に取り組む。	「再チャレンジ！ペーパーレス大作戦」により、タブレットの活用、裏面再利用、印刷部数の見直し等、コピー用紙の使用量の削減に取り組んだ。 平成29年度比△12.0%、453万枚の削減を達成。
	(3) 家庭系、事業系共通	① イベント等を活用した啓発活動	イベント会場や街頭などあらゆる場所、機会を活用し、啓発を行う。	くらし展（8月31日） パネル展示、水切り器配布、小型家電の回収 環境フェスタ（10月6日） パネル展示、水切り器配布、小型家電の回収、 古着・絵本の回収 学園祭での広報チラシ配布 福島県立医科大学（10/19） 福島学院大学（10/20） 桜の聖母短期大学（11/3）
② ごみ組成分析調査事業		経年観察のため、今後も継続して実施し、検証、途中経過を情報発信する。	11月から12月にかけて、家庭系ごみ、事業系ごみをそれぞれ4回にわたり組成分析を行った。	

令和2年度「ごみ減量大作戦」実施内容

施策	事業	概要	実施内容
1 水切りの徹底と食品ロスの削減	(1) 家庭系ごみの減量	① ダンボールコンポスト講習会	<p>初心者でも気軽に始められる段ボール箱を利用した生ごみ処理容器「ダンボールコンポスト」の講習会を実施。参加者にモニターとしてダンボールコンポストを使用してもらうことで、家庭から出る生ごみのたい肥化を行い、ごみの減量を推進する。</p> <p>期間 7月21日(火)～8月7日(金) 会場 市内17か所 (市民会館・支所・学習センター) 参加者 一般市民 計344組 410名 内容 福島市のごみ処理の現状とごみ減量大作戦 ダンボールコンポストの使い方 等</p> <p>使用后アンケート 回答率73.7%</p>
		② 食品ロス削減講演会の開催	<p>食品ロス削減アドバイザー・冷蔵庫収納家福田かずみ先生による講演会「食品ロスゼロへ！冷蔵庫整理収納講座」を実施。冷蔵庫収納家ならではの視点で、すぐに実行できる食品の整理収納術や食べ物を大切に暮らす方等を学び、家庭から出る生ごみ・食品ロスの削減を図る。</p> <p>開催日 10月18日(日) 会場 市民会館第2ホール 講師 食品ロス削減アドバイザー・冷蔵庫収納家 福田かずみ先生 参加者 一般市民 50名 内容 食品ロスの問題 冷蔵庫の整理術 など</p> <p>ホームページにて参加者からの冷蔵庫のお悩みへ回答 22件</p>
		③ 生ごみ処理容器の普及拡大	<p>「生ごみ処理容器購入費助成制度」を市政だよりやチラシ、SNSなどを活用してPRし、コンポスト等の利用拡大による生ごみの減量を図る。</p> <p>ダンボールコンポスト講習会参加者へ助成制度広報を実施。環境フェスタにて、生ごみをたい肥にしてみよう！「生ごみ処理容器展」を開催。 市政だより広報(4月) チラシ・ホームページ広報(通年)</p> <p>生ごみ処理容器購入費助成 令和2年度実績 128件 941,100円 (前年度比37件増)</p>
	(2) 事業系ごみの減量	① 「おいしい食べきり2020運動」の普及	<p>市ホームページ等による「おいしい食べきり2020運動」の啓発を実施する。</p> <p>市ホームページによる広報を実施。</p>
2 分別の徹底	(1) 家庭系ごみの減量	① リサイクルできる紙類の分別の徹底	<p>市政だより6月号に併せて折込チラシを全戸配布し、分別・出し方のルールについて周知・徹底を図った。また、より分別しやすい環境を整えるため、6月1日より「新聞紙・折込チラシ」については「紙製の新聞整理袋に入れて出す」こと、「その他の紙製容器包装」については、「紙マークのついた紙袋(取っ手部分も紙製)に入れて出す」方法も可能とした。</p>
		② 雑がみ収集事業の開始に向けた広報の実施	<p>紙類のリサイクルを促進するため、令和3年4月より、これまでの分別品目「その他の紙製容器包装」に替えて「雑がみ」の収集を実施予定。それに伴う広報を実施。</p> <p>令和3年4月の雑がみ収集開始に向け、ごみ集積所に周知用の看板(ポスター)を掲示したほか、市政だより、新聞、ラジオ、SNS、銀行等のデジタルビジョンなどあらゆる媒体を活用した広報を実施。</p>
	(1) 家庭系ごみの減量	③ 使用済はがき回収事業	<p>個人情報が含まれるため可燃ごみとして捨てられている使用済はがきを回収し、個人情報を守りながら製紙工場に搬入して溶解処理し、ダンボールなどの資源としてリサイクルする「使用済はがき回収事業」を実施。</p> <p>令和2年7月31日より、ももりんエコポストを設置 エコポスト設置箇所 19カ所、 回収量 154kg</p>
		④ ごみ減量出前講座(町内会・小中学校)	<p>町内会や学習センターの教室、小・中学校において、ごみ減量と分別に関する出前講座を実施。 小学生には、パッカー車を使用した分別体験教室も実施。</p> <p>令和2年度 町内会等6回 小中学校7校 (小学校7校)</p>
		⑤ 分別指導の徹底	<p>不適切なごみ出し情報に基づき清掃指導員が早朝と夜間にパトロールを行い、分別の指導にあたる。</p> <p>令和2年度 2班体制 早朝パトロール 21回 夜間パトロール 5回</p>
		⑥ 集団資源回収の奨励	<p>集団資源回収報奨金及び助成金について、市政だより及びグリーンガイドブックを用いて広報し、資源の再利用を図る。</p> <p>市政だより及びグリーンガイドブックを用いて広報した。 令和2年度登録団体数 252団体 回収量 1,580t</p>
		⑦ 資源物回収店舗への持ち込みの奨励	<p>家庭から出る資源物について、資源物回収を行っている店舗への持ち込みを奨励することにより、総排出量の削減とリサイクル意識の啓発を図る。</p> <p>実施店舗を市ホームページで掲載 市政だより6月号折込チラシ、市政出前講座等で活用を呼び掛けるとともに、店頭回収実施店舗の店頭にごみ減量大作戦のポスター・のぼり・チラシ等を掲示・設置し、店頭回収のPRを実施した。 店頭回収実施店舗数31店舗</p>

施策		事業	概要	実施内容
2	分別の徹底	(2) 事業系ごみの減量	① 市内事業所へのPR方法の検討 事業系ごみの減量を図るため、市内の事業者と連携した「ごみ減量大作戦」「ごみの減量・資源化」等について、PR方法を検討する。	ごみ減量大作戦協力事業所・店舗認定制度を令和3年2月に開始 協力事業所認定数 3事業所（41店舗）
		② 資源物持ち込みの奨励 組成分析の結果、事業系の可燃ごみで出されている「紙類」のうち、約3割がリサイクルできる紙類だったことから、資源化することができるものについては、古紙間屋などへの持ち込みを奨励する。	商工会議所所報2月号に、「OA用紙の削減、紙類の分別、古紙リサイクルに取組もう」の記事を掲載。事業系の紙類のリサイクルを呼び掛けた。	
	(3) 家庭系、事業系共通	① ごみ分別アプリ「さんあーる」の利用促進 市政だより折込チラシの全戸配布、Twitter等のSNSでのPR、チラシの小学校への配布等により、幅広い世代への広報を実施する。また、出前講座、ダンボールコンポスト講習会、市主催のInstagram講習会等でダウンロード方法の実演等を実施し、利用促進を図る。	高齢者向けICT講習会でダウンロードのお手伝いをするなど、あらゆる機会を捉えて、ごみ分別アプリ「さんあーる」の広報・啓発に努めた。新規ダウンロード数が令和元年度と比較して、26%増加、令和2年12月には累計ダウンロード数1万件を達成。 令和2年度新規登録者数 5,575件 令和2年度未登録総数 11,797件	
		② 雑がみ、古布収集など、新たな収集品目の検討 可燃ごみに含まれる資源物の新たな収集品目を検討する。使用済みがきの回収及び古着・絵本のイベント回収を実施。	雑がみ収集事業の開始（R3.4～） 使用済みがきの回収（R2.7～） 古着については、新型コロナウイルスの影響により回収事業が出来なかった。	
3	たい肥化の徹底	(1) 家庭系ごみの減量	① ダンボールコンポスト講習会【再掲】 初心者でも気軽に始められる段ボール箱を利用した生ごみ処理容器「ダンボールコンポスト」の講習会を実施。参加者にモニターとしてダンボールコンポストを使用してもらうことで、家庭から出る生ごみのたい肥化を行い、ごみの減量を推進する。	期間 7月21日（火）～8月7日（金） 会場 市内17か所 （市民会館・支所・学習センター） 参加者 一般市民 計344組 410名 内容 福島市のごみ処理の現状とごみ減量大作戦 ダンボールコンポストの使い方等 使用後アンケート 回答率73.7%
		② イベントを活用した「たい肥化」の普及啓発 環境フェスタなどのイベントにおいて、「ダンボールコンポスト」を用いたたい肥化の方法や、生ごみの減量の意義を説明し、生ごみの減量を図る。	環境フェスタ 10月4日（日） 生ごみ処理容器展示相談会「生ごみをたい肥にしてみよう！生ごみ処理容器展」を開催。様々なタイプの生ごみ処理容器を展示し、その特徴を紹介した。実際に触れてもらうことで、生ごみ処理容器の普及に努めた。	
		③ 生ごみ処理容器の普及拡大【再掲】 「生ごみ処理容器購入費助成制度」を市政だよりやチラシ、SNSなどを活用してPRし、コンポスト等の利用拡大による生ごみの減量を図る。	ダンボールコンポスト講習会参加者へ助成制度広報を実施。環境フェスタにて、生ごみをたい肥にしてみよう！「生ごみ処理容器展」を開催。 市政だより広報（4月） チラシ・ホームページ広報（通年） 生ごみ処理容器購入費助成 令和2年度実績128件941,100円 （前年度比37件増）	
	(2) 家庭系、事業系共通	① 草類の減量の呼びかけ 可燃ごみの約2割を占める草類の減量について、市政だよりなどの広報媒体を用いて草類の水分を除く方法を呼びかける。	市政だより8月号の記事にて草類の乾燥の呼びかけを実施。実際に草むしり後の草類を乾燥させる実験を行い、乾燥前、乾燥後の写真をホームページに掲載し、草類の減量を呼び掛けた。	
4	その他のごみの減量化施策	(1) 家庭系ごみの減量	① 新たな広報の実施 従来の市政だより等の広報に加え、Facebook、TwitterなどのSNSによる定期的な情報発信、東口・西口デジタルビジョン等での広報、Yahoo!バナー広告の掲載、のぼり等を活用した市内の資源物回収店舗等でのPR実施など、さまざまな広報手段を用いて、幅広い世代への「ごみ減量大作戦」「ごみの減量・資源化」等のPRを実施する。	○資源物の店頭回収を実施しているスーパーマーケットや銀行などと連携し、ごみ減量大作戦のポスターやのぼり、チラシを掲示・設置したほか、市役所本庁舎や銀行のデジタルビジョンを活用したごみ減量大作戦の広報等を実施。 広報にご協力いただいた店舗・銀行等 67カ所 ○Facebook、Twitterなどの各種SNSによる広報を積極的に行った ほか、スマートフォン向けバナー広告サービスのLocAD+を利用し、幅広い世代へ「ごみ減量大作戦」「ごみの減量化・資源化」のPRを実施した。 LocAD+ 広告期間20日間、掲載回数約12万回
		② 市政だより折り込みによる広報 リサイクルできる紙類の分別徹底、資源物の店頭回収促進、ごみ分別アプリ「さんあーる」の利用拡大について広報を実施する。	市政だより6月号に併せて折込チラシを全戸配布し、分別・出し方のルールについて周知・徹底を図った。 毎月、様々な内容のごみの減量化・資源化、適正排出に関する記事の掲載を行った。	
		③ 高校、大学の学園祭での啓発 高校、大学の学園祭に出向き、不特定多数の方が集まる場所でごみの減量を訴える。	新型コロナウイルスの影響により、学園祭等が中止となったため、大学生向けにごみ分別等のチラシ（データ）を作成し、学校内メール等を通じて配信した。	

施 策		事 業	概 要	実施内容
4 その 他の ごみ の減 量化 施策	(2) 事業系ごみ の減量	① 福島市役所の 取り組み	事業所としての福島市役所が、ごみ減量に向けた推進役を担うため、紙類の更なる分別徹底等に取り組む。	庁内広報（デジタル掲示板）にて「ごみ減量大作戦」の記事を掲載し、職員への情報提供を行った。 市役所から可燃ごみとして排出される使用済み名刺を回収し、ごみの減量化を図った。 回収量 27kg
		② 市内事業所 への PR方法の 検討【再掲】	事業系ごみの減量を図るため、市内の事業者と連携した「ごみ減量大作戦」「ごみの減量・資源化」等について、PR方法を検討する。	ごみ減量大作戦協力事業所・店舗認定制度を令和3年2月に開始 協力事業所認定数 3事業所（41店舗）
	(3) 家庭系、 事業系共通	① イベント等を 活用した 啓発活動	イベント会場や街頭などあらゆる場所、機会を活用し、啓発を行う。	環境フェスタ（10月4日） パネル展示、コンポスト容器展示、小型家電の回収した。

令和3年度「ごみ減量大作戦」実施内容

施 策	事 業	概 要	実施内容	
1 水切りの徹底と食品ロスの削減	(1) 家庭系ごみの減量	① 段ボール製コンポスト購入費助成事業	<p>一般家庭から排出される生ごみ等の減量化及び資源の再利用に対する市民の意識の高揚を図るため、段ボール製コンポスト購入費助成事業を実施する。</p> <p>内 容 市指定のダンボールコンポストの購入費を助成 購入時自己負担額 1,000円 助成数 300セット その他 ダンボールコンポスト使用後のアンケートを実施し、今後の施策に活用する。</p>	<p>申込期間 4月28日(水)～5月31日(水)</p> <p>申込件数 328件 (オンライン277件、窓口51件)</p> <p>助成件数 310件 (重複申込 6件、未購入者 12件)</p> <p>使用後アンケート 回答率 61.0% アンケート結果については、市ホームページで公開</p>
		② 段ボール製コンポスト活用事業	<p>小中学校において、ダンボールコンポストを活用した生ごみのたい肥化を実施。子どもたちのごみ問題や環境問題に対する関心を育てる。</p>	<p>参加校 5校14クラス</p> <p>(松川小学校、水原小学校、西根中学校、野田中学校、桜の聖母学院中学校)</p>
		③ 食品ロス削減アドバイザー新設	<p>家庭から出る可燃ごみの4割を占める「生ごみ」の減量化、資源化を図るため、家庭から出る食品ロスの削減について、専門的立場からの指導・助言をいただく福島市食品ロス削減アドバイザーを新設。</p>	<p>福島市食品ロス削減アドバイザー 福田かずみ 先生 (食品ロス削減アドバイザー・冷蔵庫収納家) 委嘱期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日</p>
		④ 食品ロス削減オンライン講演会の開催	<p>食品ロスや冷蔵庫収納術、食品の過剰除去などに関する講演会をオンラインで実施。</p>	<p>演 題 「めざせ美人冷蔵庫！ 食品ロスをなくす冷蔵庫整理収納術」</p> <p>開催日時 1月16日(日)午後2時～3時</p> <p>開催方法 オンライン ZoomによるLIVE配信および見逃し配信(1月21日～1月31日)</p> <p>講 師 福島市食品ロス削減アドバイザー 福田かずみ先生</p> <p>申込方法 オンライン申請 申込者数 94名 視聴者数 30名程度 見逃し配信視聴回数 88回 視聴後アンケート 回答率 44.6% アンケート結果については、市ホームページで公開</p>
		⑤ 食品ロス削減ダイアリー事業	<p>身の回りで発生する食品ロスを意識することで、食品ロス問題やごみの問題に興味・関心を持ってもらうため、食品ロス削減ダイアリーを作成。</p> <p>小学生向け 夏休み前に小学校全児童へ配布 大人向け 市政だより9月号にて参加者募集</p>	<p>【小学生向け】 食品ロス削減アドバイザー監修のもと、子ども向けに作成した「食品ロスダイアリー」を福島市内全児童に配布 配布時期 令和3年7月 配 布 数 約13,000冊</p> <p>【大人向け】 食品ロス削減市民モニターを募集し、食品ロス削減月間である10月の1か月間、食品ロス削減アドバイザー監修のもと作成した「食品ロスダイアリー」をつけてもらう事業を実施 募集方法 市政だより9月号 申込人数 30人 ダイアリー提出者数 25人 食品ロスダイアリーや事業の結果については、市ホームページに公開</p>
		⑥ 食品ロス削減パネル展の開催	<p>食品ロスや冷蔵庫収納術等に関するパネルを作成し、福島市民のくらし展で「食品ロス削減パネル展」を開催するほか、学習センター等を活用したパネル展を開催。</p>	<p>食品ロス削減アドバイザー監修のもと食品ロス削減パネル5枚を作成し、パネル展を開催。併せて、(株)ニチバンより提供を受け、福田先生監修の食品ロス削減に役立つ「ディアキチワザアリテーブ」の試供品配布を実施。</p> <p>【イオン福島店】 期間 10月1日～10月12日</p> <p>【イトーヨーカドー福島店】 期間 10月21日～11月3日</p> <p>【福島大学附属中学校】 期間 11月18日～11月30日</p> <p>【学習センター巡回】 期間 12月3日～令和4年1月26日 場所 清水、吾妻、渡利、松川、蓬萊、もちずり、飯坂の各学習センターを巡回</p> <p>【福島市民のくらし展】 開催日 令和4年2月11日</p>
		⑦ 食品ロス実態調査の実施	<p>福島市の食品ロスの実態を把握するため、環境省の支援を受けて「食品ロス実態調査」を実施。</p>	<p>食品ロス実態調査及び可燃ごみ組成分析調査を実施 実 施 日 10月11日、12日 調査試料 市内の家庭から排出された可燃ごみ410kg</p> <p>調査内容 〔食品廃棄物(160kg)の組成調査〕 直接廃棄/食べ残し/調理くず 〔その他の廃棄物の組成調査〕 紙類/プラスチック類/草枝類/布類/その他</p> <p>食品ロス実態調査結果については、市ホームページにて公開</p>

施策	事業	概要	実施内容																																							
1 水切りの徹底と食品ロスの削減	(1) 家庭系ごみの減量	⑧ 生ごみ処理容器の普及拡大	「生ごみ処理容器購入費助成制度」について、市政だよりやチラシ、SNSなどを活用してPRし、コンポスト等の利用拡大による生ごみの減量を図る。 市政だより広報（4月） チラシ・ホームページ広報（通年） 出前講座等での広報 生ごみ処理容器購入費助成 令和3年度実績172件1,509,100円 （前年度比44件増）																																							
	(2) 事業系ごみの減量	① 「おいしい食べきり2020運動」の普及	市ホームページ等による「おいしい食べきり2020運動」の啓発を実施する。 市ホームページによる広報を実施。																																							
2 分別の徹底	(1) 家庭系ごみの減量	① 雑がみ収集の開始	家庭から出る可燃ごみのうち約20%を占める紙類の資源化を図るため、令和3年4月から雑がみ収集を開始。 【啓発用紙袋作成】10,000袋 クリーンセンター見学者（3年分）6,000袋 イベント・出前講座等用（3年分）4,000袋 雑がみ収集量の推移（令和2年度は「その他の紙製容器包装」） <table border="1"> <caption>雑がみ収集量の推移（令和2年度は「その他の紙製容器包装」）</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>令和3年度 (t)</th> <th>令和2年度 (t)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>34.21</td><td>23.1</td></tr> <tr><td>5月</td><td>33.08</td><td>23.48</td></tr> <tr><td>6月</td><td>30.52</td><td>22.2</td></tr> <tr><td>7月</td><td>29.41</td><td>21.26</td></tr> <tr><td>8月</td><td>32.68</td><td>25.85</td></tr> <tr><td>9月</td><td>32.34</td><td>21.41</td></tr> <tr><td>10月</td><td>31.55</td><td>22.03</td></tr> <tr><td>11月</td><td>28.99</td><td>22.15</td></tr> <tr><td>12月</td><td>37.17</td><td>23.16</td></tr> <tr><td>1月</td><td>37.93</td><td>25.8</td></tr> <tr><td>2月</td><td>31.07</td><td>22.82</td></tr> <tr><td>3月</td><td>35.59</td><td>24.79</td></tr> </tbody> </table>	月	令和3年度 (t)	令和2年度 (t)	4月	34.21	23.1	5月	33.08	23.48	6月	30.52	22.2	7月	29.41	21.26	8月	32.68	25.85	9月	32.34	21.41	10月	31.55	22.03	11月	28.99	22.15	12月	37.17	23.16	1月	37.93	25.8	2月	31.07	22.82	3月	35.59	24.79
		月	令和3年度 (t)	令和2年度 (t)																																						
		4月	34.21	23.1																																						
		5月	33.08	23.48																																						
		6月	30.52	22.2																																						
		7月	29.41	21.26																																						
	8月	32.68	25.85																																							
9月	32.34	21.41																																								
10月	31.55	22.03																																								
11月	28.99	22.15																																								
12月	37.17	23.16																																								
1月	37.93	25.8																																								
2月	31.07	22.82																																								
3月	35.59	24.79																																								
② 使用済はがき回収事業	個人情報が含まれるため可燃ごみとして捨てられている使用済はがきを回収し、個人情報を守りながら製紙工場に搬入して溶解処理し、ダンボールなどの資源としてリサイクルする「使用済はがき回収事業」を継続して実施。 ももりんエコポストを設置 エコポスト設置箇所 19カ所、 回収量 324.7kg																																									
③ ごみ減量出前講座（町内会・小中学校）	町内会や学習センターの教室、小・中学校において、ごみ減量と分別に関する出前講座を実施。 小学生には、パッカー車を使用した分別体験教室も実施。 環境課のクールチョイスともタイアップし、環境問題への意識啓発を図る。 令和3年度 小中学校9校 高校1校 出前講座19回																																									
④ 分別指導の徹底	不適切なごみ出し情報に基づき清掃指導員が早朝と夜間にパトロールを行い分別の指導にあたる。 令和3年度 2班体制 早朝パトロール 26回 夜間パトロール 0回 ※夜間は実施していない。																																									
⑤ 集団資源回収の奨励	集団資源回収制度について、市政だより、市ホームページ及びクリーンガイドブック等を用いて広報し、資源の再利用を図る。 市政だより及びクリーンガイドブックを用いて広報した。 令和3年度登録団体数 241団体 回収量 1,491t																																									
⑥ 資源物回収店舗への持ち込みの奨励	家庭から出る資源物について、資源物回収を行っている店舗への持ち込みを奨励することにより、総排出量の削減とリサイクル意識の啓発を図る。 実施店舗を市ホームページに掲載 ごみ減量大作戦チラシ、雑がみ啓発チラシ（班回覧）、市政出前講座等で活用を呼び掛けるとともに、店頭回収実施店舗の店頭にごみ減量大作戦のポスター・のぼり・チラシ等を掲示・設置し、店頭回収のPRを実施した。 店頭回収実施店舗数31店舗（令和4年3月末現在）																																									
(2) 事業系ごみの減量	① 市内事業所へのPR方法の検討	事業系ごみの減量を図るため、市内の事業者と連携した「ごみ減量大作戦」「ごみの減量・資源化」等について、PR方法を検討する。 ごみ減量大作戦協力事業所・店舗認定制度を令和3年2月に開始 協力事業所認定数 8事業所（61店舗）																																								
(3) 家庭系、事業系共通	① ごみ分別アプリ「さんあーる」の利用促進	市政だより折込チラシの全戸配布、Twitter等のSNSでのPR、チラシの小中学校への配布等により、幅広い世代への広報を実施する。また、出前講座、ダンボールコンポスト講習会、市主催のインスタグラム講習会等でダウンロード方法の実演等を実施し、利用促進を図る。 新規ダウンロード数が令和2年度と比較して、ほぼ横ばいとなった。 令和3年度新規登録者数 5,533件 令和3年度未登録総数 17,330件																																								
	② 雑がみ、古布収集など、新たな収集品目の検討	可燃ごみに含まれる資源物の新たな収集品目を検討する。 使用済はがきの回収及び古着・絵本のイベント回収を実施。 雑がみ収集事業の開始（R3.4～） 使用済はがきの回収（R2.7～） 古着については、新型コロナウイルスの影響により回収事業が出来なかった。																																								

施 策		事 業	概 要	実施内容
3 たい肥化の徹底	(1) 家庭系ごみの減量	① 生ごみ処理容器の普及拡大【再掲】	「生ごみ処理容器購入費助成制度」について、市政だよりやチラシ、SNSなどを活用してPRし、コンポスト等の利用拡大による生ごみの減量を図る。	市政だより広報（4月） チラシ・ホームページ広報（通年） 出前講座等での広報 生ごみ処理容器購入費助成 令和3年度実績 172件 1,509,100円 （前年度比44件増）
		② 家庭用剪定枝破砕機貸与事業	福島県廃棄物削減モデル事業「福島モデル」として市民及び町内会等に破砕機の貸し出しを行い、庭木等で発生する枝葉の有効利用を促進し、ごみの減量化・資源化を図る。	実施期間：7月12日～12月28日 貸出件数：185件 （個人：183件、団体：2件） 稼働日数：335日 処 理 量：6,813kg
	(2) 家庭系、事業系共通	① 草類の減量の呼びかけ	可燃ごみの約2割を占める草類の減量について、市政だよりなどの広報媒体を用いて草類の水分を除く方法を呼びかける。	市政だより7月号の記事にて草類の乾燥の呼びかけを実施。実際に草むしり後の草類を乾燥させる実験を行い、乾燥前、乾燥後の写真をホームページに掲載し、草類の減量を呼び掛けた。
		② 落ち葉等たい肥化事業	落ち葉等のたい肥化を進めるため、「タヒロン」を用いて、市・町内会等から出る草類の減量を図る。	市：新浜公園4台設置 町内会等：15町内会に17台設置
4 その他のごみの減量化施策	(1) 家庭系ごみの減量	① 新たな広報の実施	従来の市政だより等の広報に加え、Facebook、TwitterなどのSNSによる定期的な情報発信、東口・西口デジタルビジョン等での広報、Yahoo!バナー広告の掲載、のぼり等を活用した市内の資源物回収店舗等でのPR実施など、さまざまな広報手段を用いて、幅広い世代への「ごみ減量大作戦」「ごみの減量・資源化」等のPRを実施する。	資源物の店頭回収を実施しているスーパーマーケットや銀行などと連携し、ごみ減量大作戦のポスターやのぼり、チラシを掲示・設置したほか、市役所本庁舎や銀行のデジタルビジョンを活用したごみ減量大作戦の広報等を実施。広報にご協力いただいた店舗・銀行等 67カ所 また、Facebook、Twitterなどの各種SNSによる広報を積極的に行った。
		② 市政だより折り込みによる広報	リサイクルできる紙類の分別徹底、資源物の店頭回収促進、ごみ分別アプリ「さんあーる」の利用拡大について広報を実施する。	毎月、様々な内容のごみの減量化・資源化、適正排出に関する記事の掲載を行った。
	(2) 事業系ごみの減量	① 福島市役所の取り組み	事業所としての福島市役所が、ごみ減量に向けた推進役を担うため、紙類の更なる分別徹底等に取り組む。	庁内広報にて「ごみ減量大作戦」の記事を掲載し、職員への情報提供を行った。 市役所から可燃ごみとして排出される使用済み名刺を回収し、ごみの減量化を図った。 回収量 24kg
		② 市内事業所へのPR方法の検討【再掲】	事業系ごみの減量を図るため、市内の事業者と連携した「ごみ減量大作戦」「ごみの減量・資源化」等について、PR方法を検討する。	ごみ減量大作戦協力事業所・店舗認定制度を令和3年2月に開始 協力事業所認定数 8事業所（61店舗）
	(3) 家庭系、事業系共通	① ごみ組成分析調査事業【再掲】	経年観察のため、今後も継続して実施し、検証、途中経過を情報発信する。	食品ロス実態調査及び可燃ごみ組成分析調査を実施 実 施 日 10月11日、12日 調査試料 市内の家庭から排出された 可燃ごみ410kg 調査内容 〔食品廃棄物（160kg）の組成調査〕 直接廃棄／食べ残し／調理くず 〔その他の廃棄物の組成調査〕 紙類／プラスチック類／草枝類／布類／その他 食品ロス実態調査結果については、市ホームページにて公開